



令和2年8月5日  
海上保安庁

## 海の事故ゼロキャンペーン期間中の海難発生状況（速報値）

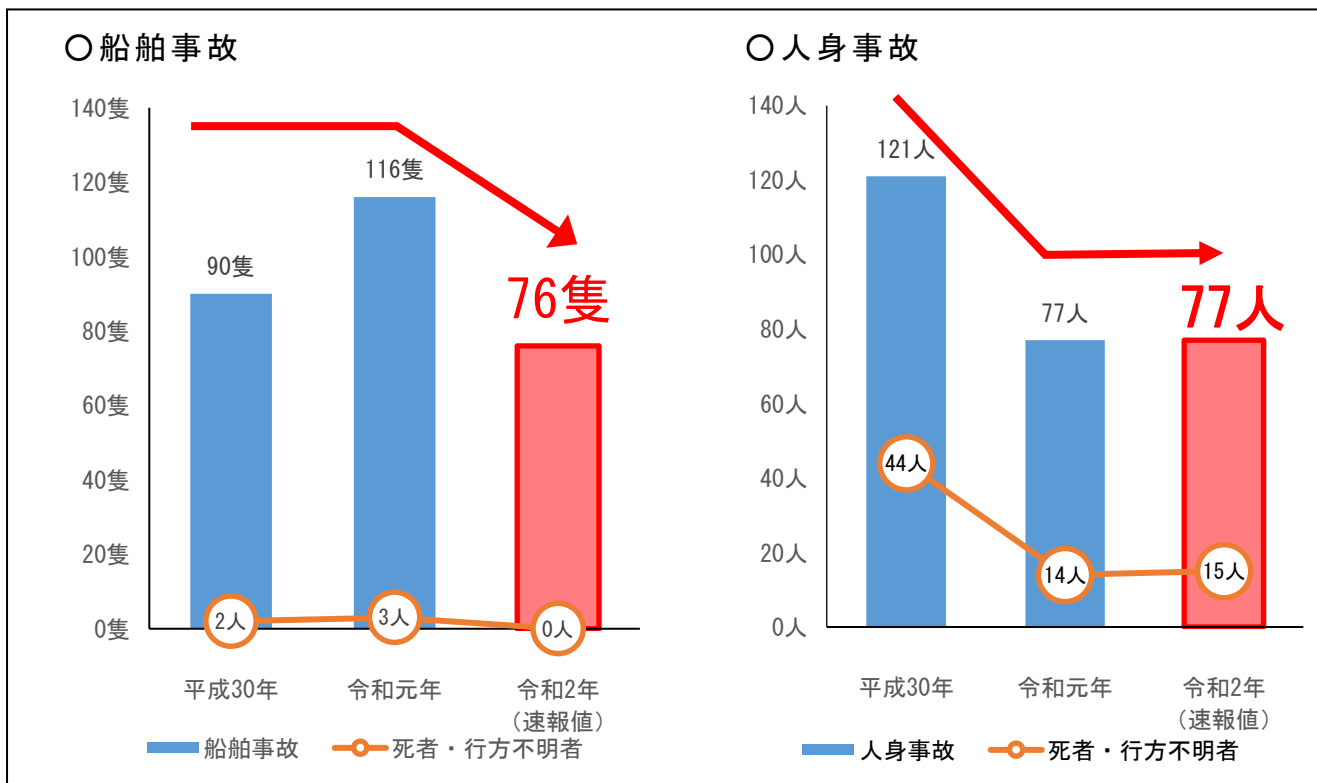
～船舶事故は大幅減、人身事故は横ばい～

令和2年7月16日～7月31日の海難発生数は、以下のとおりです。

船舶事故は、昨年と比較して大幅に減少し、プレジャーボートの事故は横ばいであったものの漁船の事故が著しく減少しました。要因としては、海産物の需要減少や日照不足などが考えられます。

人身事故は昨年と同数でしたが、遊泳中の事故は若干減少する一方で釣り中の事故が大幅に増加しました。平成30年と比較すると令和元年と同様減少しており、要因としては、昨年同様、日照不足や梅雨明けが遅れたことが考えられます。

これから、いよいよ夏本番となり、マリンレジャー活動に関連する事故が多発することが懸念されますので、海上保安庁では引き続き発生状況を注視し、安全啓発に取り組むこととしています。



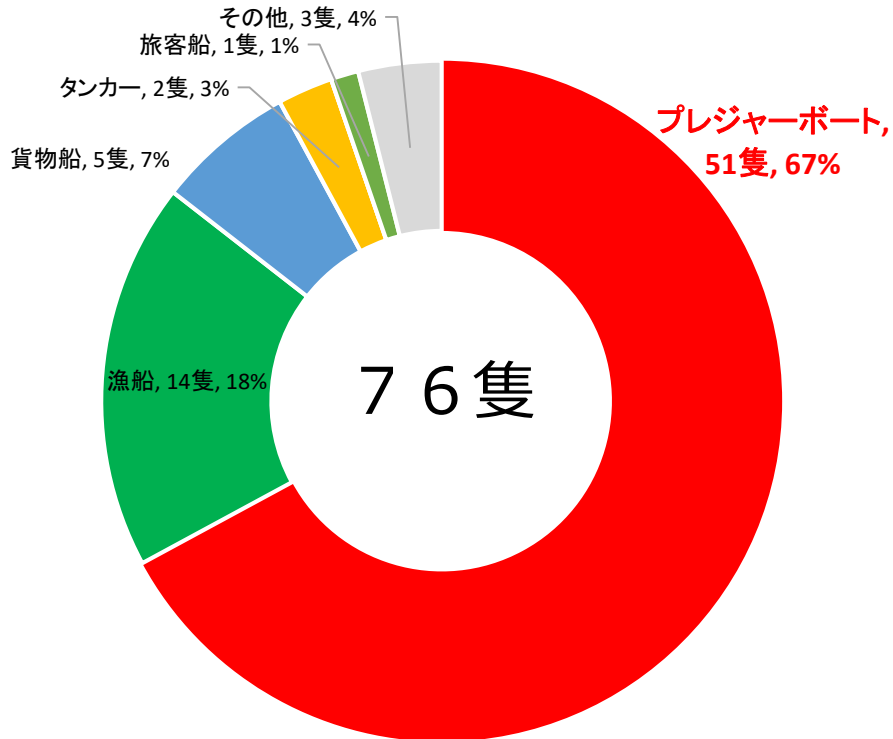
★「船舶事故」とは、船舶の運航に関連した損害や具体的な危険が生じたものをいいます。

★「人身事故」とは、海上又は海中における活動中に死傷者（自殺、病気等を除く）が発生したものをいいます。

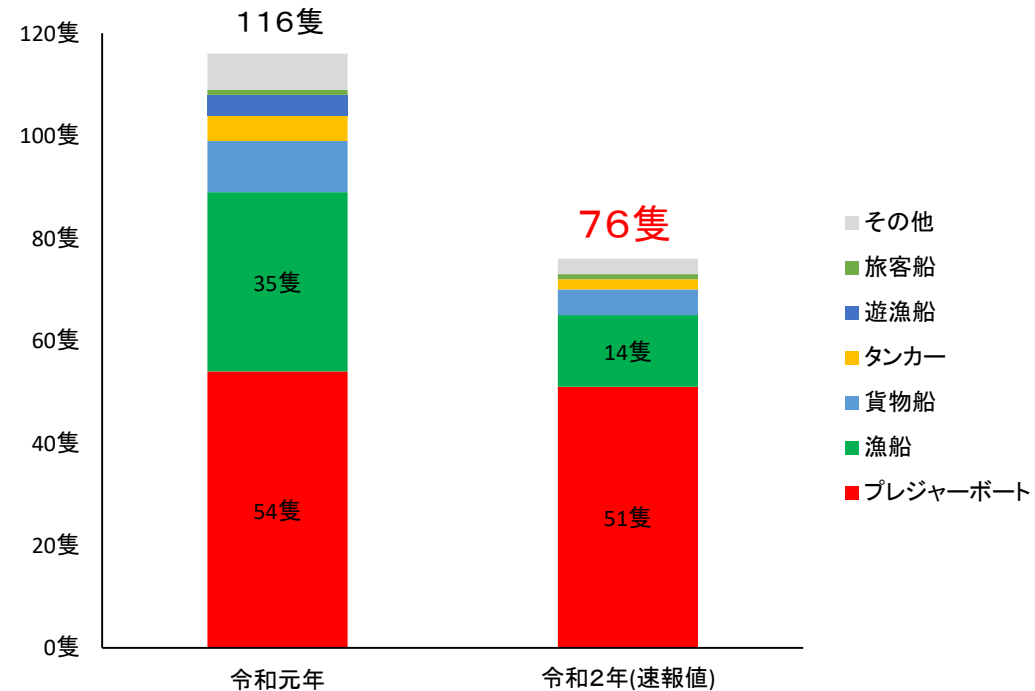
## 船舶事故発生状況

- ▶ 船舶事故隻数：76隻（昨年比 40隻減少）
- ▶ 死者・行方不明者：0人（昨年比 3人減少）
- ▶ プレジャーボートの事故の発生割合が、昨年同期間に対して大きく増加（約47%⇒約67%）
- ▶ 漁船の事故の発生割合が、昨年同期間に対して大きく減少（約30%⇒約18%）

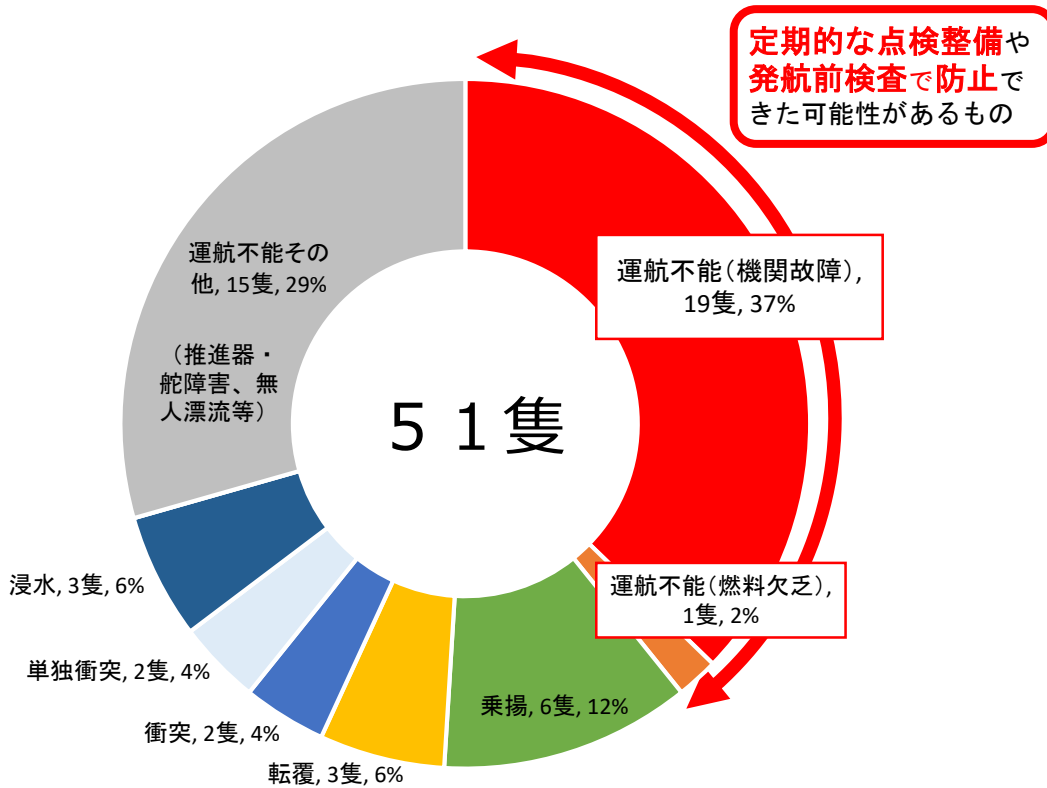
### 【船舶用途別発生状況】



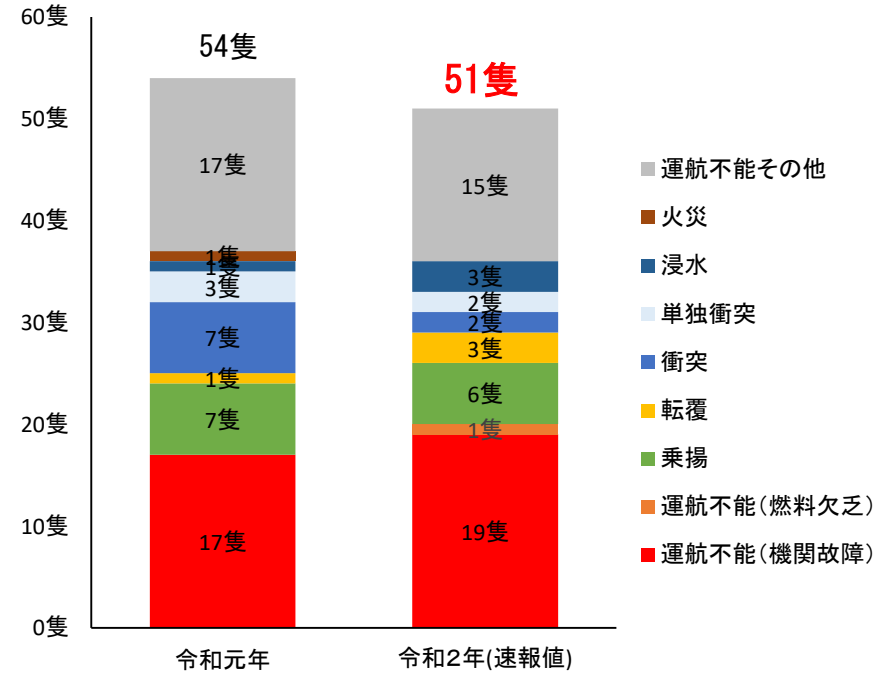
### 【昨年比】



## 【海難種類別発生状況】



## 【昨年比】



## 事故事例

事故発生日 令和2年7月19日  
 事故発生場所 山口県下関市沖  
 事故船舶 プレジャーボート 1名乗り

### 概要

漁場移動のため船を動かそうとしたところ、冷却水が上がらず、エンジン高温の警報が鳴り航行不能となったもの。巡視艇及び水難救済会所属船により曳航救助された。

事故発生日 令和2年7月24日  
 事故発生場所 新潟県柏崎市沖  
 事故船舶 プレジャーボート(手漕ぎボート) 1名乗り

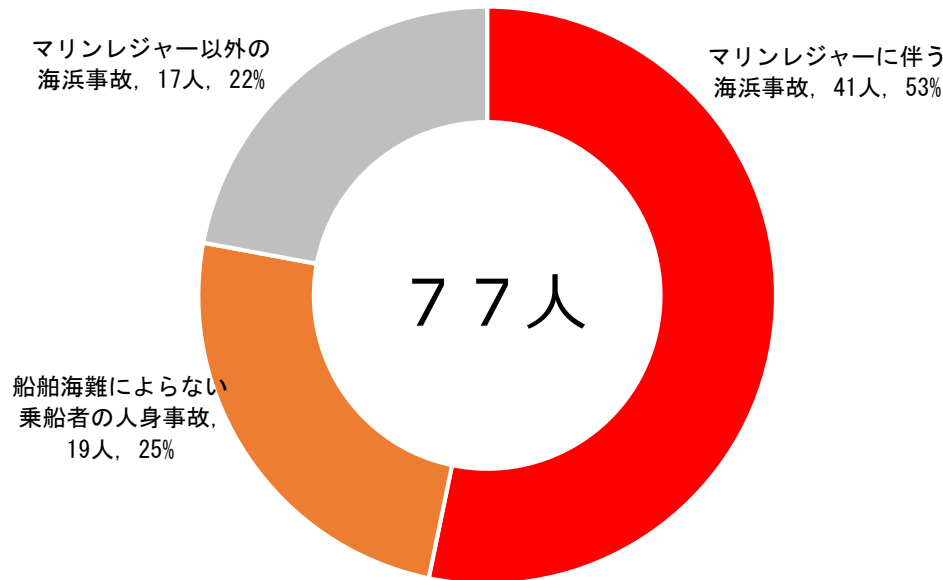
### 概要

遊漁を終え、岸に戻る途中、後方から波が船内に入り込み、バランスを崩した際に更に波を受け転覆したもの。付近ライフセーバーにより救助された。

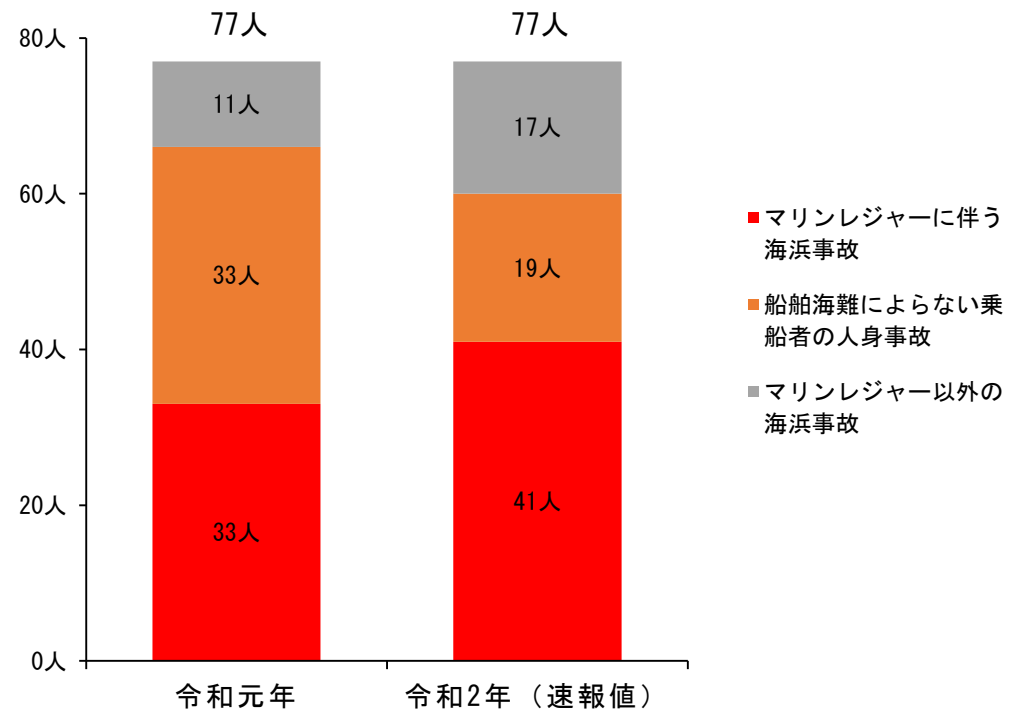
## 人身事故発生状況

- 人身事故者数： 77人（昨年比 増減なし）
- 死者・行方不明者： 15人（昨年比 1人増加）
- マリンレジャーに伴う海浜事故の発生割合が、昨年同期間に対して大きく増加（約43%⇒約53%）
- 乗船者の人身事故の発生割合が、昨年同期間に対して大きく減少（約43%⇒約25%）

### 【事故区分別発生状況】

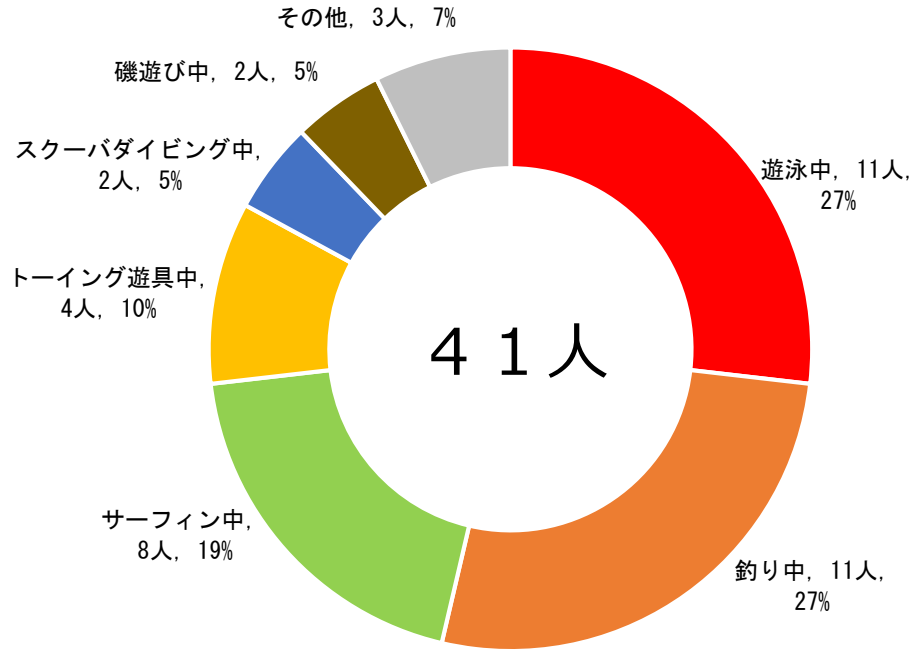


### 【昨年比】

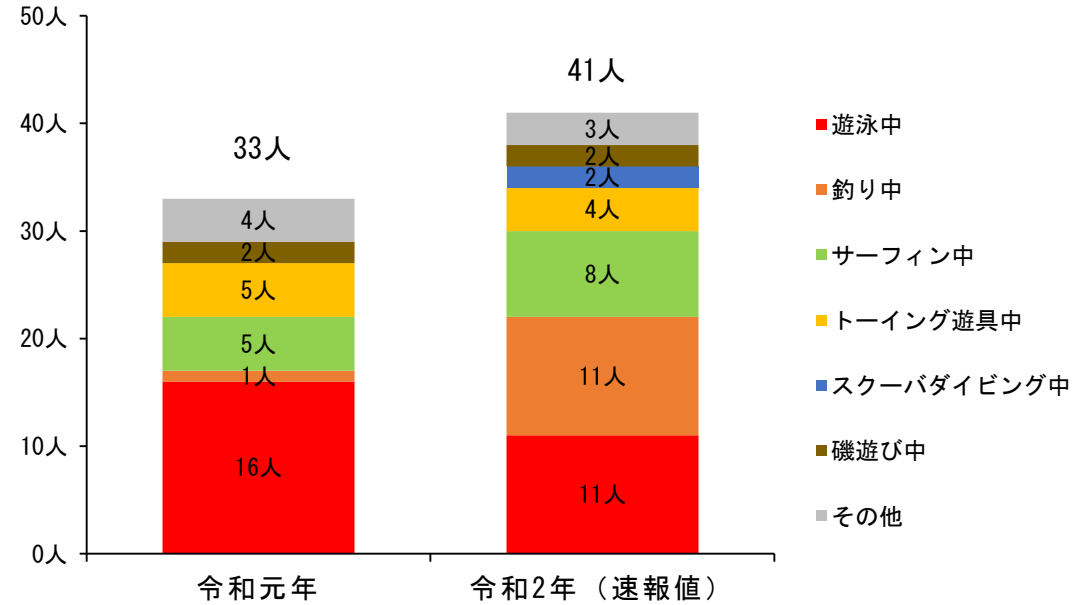


※ 船舶海難によらない乗船者の人身事故：乗船中に転倒し負傷 等  
 マリンレジャー以外の海浜事故：散歩中に岸壁から海中転落 等

## 【活動内容別発生状況】



## 【昨年比】



## 事故事例

事故発生日 令和2年7月23日

事故発生場所 福井県小浜市所在 内外海漁港

事故者 70代 男性

### 概要

事故者は、単身で内外海漁港を訪れ、防波堤上で釣りをしていたが、足を滑らせて消波ブロックに転落したもの。

付近目撃者に救助されたものの、搬送先の病院で右大腿骨骨幹部骨折、頭部等の擦過傷と診断され、入院を要することとなった。

事故発生日 令和2年7月20日

事故発生場所 鹿児島県阿久根市所在 脇本海水浴場

事故者 20代 女性 4名

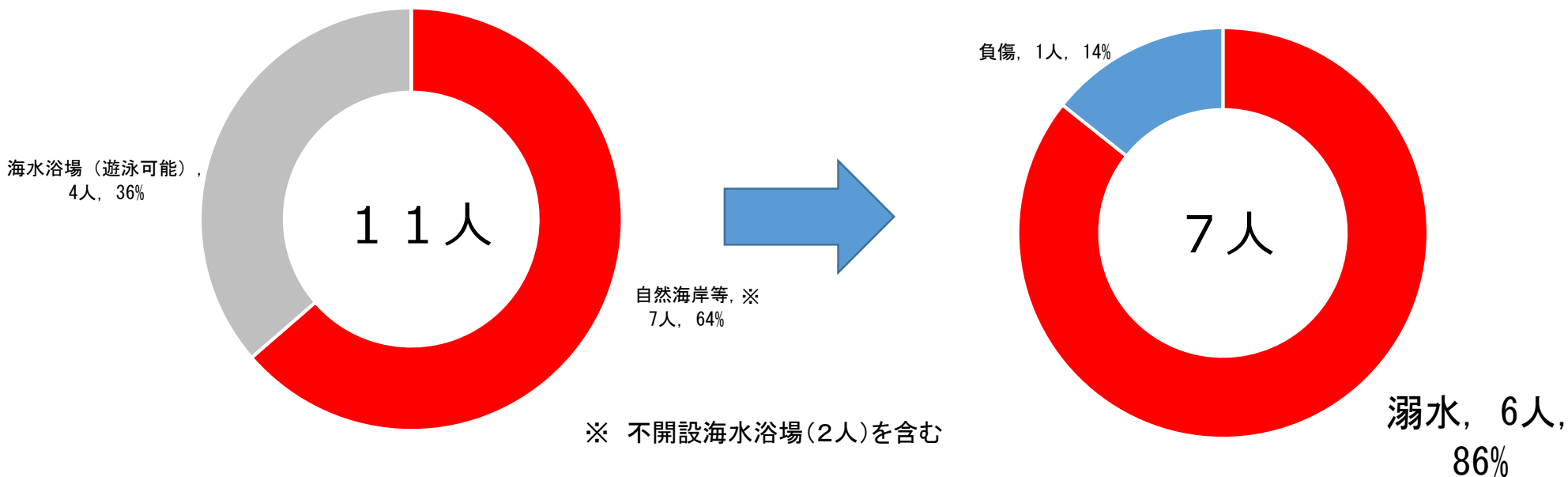
### 概要

事故者4名は、海水浴場内において遊泳していたが、足のつかない場所まで流され溺水したもの。

その後、付近ウィンドサーファーらにより救助され、搬送先の病院で誤嚥性肺炎と診断された。

## 【遊泳場所別事故発生状況】

## 【自然海岸等 事故内容別発生状況】



### 不開設海水浴場での事故事例

事故発生日 令和2年7月19日

事故発生場所 香川県さぬき市所在 津田の松原海水浴場

事故者 40代 男性

#### 概要

事故者は、知人とともに津田の松原海水浴場を訪れ、2人でスノーケルを装着して遊泳を開始したものの、何らかの原因で溺水し、海底に沈んだもの。

消防により発見、揚収されたが、搬送先の病院で死亡が確認された。

事故発生日 令和2年7月31日

事故発生場所 千葉県南房総市所在 豊岡海水浴場

事故者 40代 男性

#### 概要

事故者は、知人とともに豊岡海水浴場を訪れ、遊泳を開始したものの、海に飛び込んだ際に海底に頭を打ちつけて負傷したもの。

## 1 状況

不開設海水浴場で人身事故が2人発生したものの、その他大きなトラブルの発生なし

## 2 要因

○記録的な長雨と梅雨明けの遅延により、本格的な遊泳シーズンに至らなかったこと

○自治体による不開設海水浴場にかかる自発的な安全対策が推進されたこと

○メディアにより不開設海水浴場の危険要因について広く周知が行われたこと

○海上保安庁のほか自治体、警察、消防、ライフセーバーなどの民間救助機関が連携して活発な海浜巡回を行ったこと

## 3 懸念

8月に入り、夏本番を向かえ、遊泳中の事故増加が懸念される

## プレジャーボートの事故防止

例年、夏季期間はプレジャーボートの事故が増加する傾向にあり、特に発航前検査や整備事業者等による定期的な点検整備で防止可能な機関故障・バッテリー過放電・燃料欠乏による海難が多く発生していることから、小型船舶操縦者の遵守事項に定められた**発航前検査を適切に実施するほか、整備事業者等による定期的な点検整備を励行しましょう。**



〈【海上保安庁】海難防止啓発アニメーション〉

[https://youtu.be/o8-gD2F\\_0CQ](https://youtu.be/o8-gD2F_0CQ)

## ミニボートの事故防止

ミニボート事故は転覆が最も多く発生しています。特に海に関する基礎知識やミニボートの特性を正しく理解しないまま海に出て**転覆に至る事故が多く発生**していることから、ウォーターセーフティガイド（ミニボート編）に掲載されている安全情報を参考にして事故防止に努めましょう。



【事件事例】 ※令和元年12月発生

事故者2人は、それぞれミニボートの船尾方向に乗船して帰港中、船首方向から強風（風速13m/s）及び高波（1.5m）を受け、転覆しました。

事故者2人は、事故の通報を受けた巡視艇及び航空機により救助され、怪我等はありませんでした。

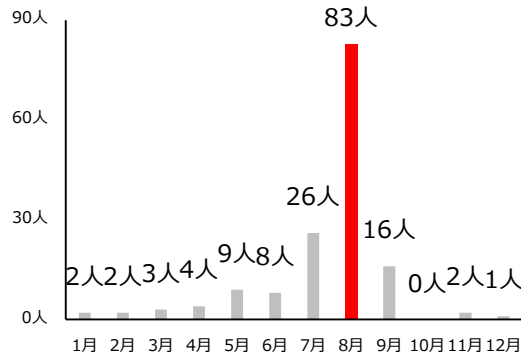


## 遊泳中の事故防止

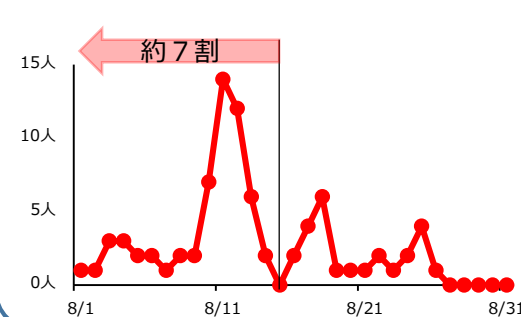
例年7月、8月に遊泳中の事故が増加しており、昨年の8月にあっては、約7割の事故がお盆休みまでに発生しています。また、今年の海の事故ゼロキャンペーン期間中に発生した遊泳中の事故のうち、全体の約6割は「遊泳可能な海水浴場以外」で発生しています。

海で泳ぐ場合は、海水浴場の開設・不開設に関する自治体等の最新情報に留意し、**監視員やライフセーバーが常にいる管理された遊泳可能な海水浴場で泳ぐようにしましょう。**

<令和元年 月別遊泳中の人身事故発生状況>



<令和元年8月 日別遊泳中の人身事故発生状況>



また、当庁が制作に協力した安全啓発動画が内閣府大臣官房政府広報室のホームページに公開されています。この動画は遊泳中の事故防止に関する知識の習得を目的としています。ご利用ください。

- ① ライフセーバーがいる場所で！
- ② 自らの命を守ることができる状況で！



- ③ 子供から目を離さないこと
- ④ お酒を飲んだら泳がない！



<海のプロにきく“遊泳時4つの心得”> (制作・著作：内閣府)

<https://nettv.gov-online.go.jp/prg/prg20942.html>

## 釣り中の事故防止

釣りを安全に楽しむため、最低限必要な装備として①ライフジャケット、②釣り場に応じた履物、③通信装備（防水ケース入り携帯電話）を準備しましょう。

7月において発生した釣り中における事故をいくつか紹介します。ウォーターセーフティガイド（釣り編）も合わせてご覧ください。



## 〇体調管理に気を付けましょう

### [事事故事例]

事故者は深夜に防波堤で釣りをしていたところ、誤って海中転落しました。なお、事故者は飲酒により、酩酊状態でした。



### [対策]

アルコールの影響で判断力が鈍ることにより、飲酒をしない状態と比べ、誤って海中転落する可能性が大きくなります。酩酊状態になるまで飲酒をすることは控えましょう。

## 〇足元に注意しましょう

### [事事故事例]

事故者は釣りをを行うため、消波ブロックに移動していたところ、足を滑らせて消波ブロックの間に転落しました。



### [対策]

釣りをを行う際には、事前に足元の滑りやすい場所、段差突起物などの危険個所を把握し、海中転落しないように注意しましょう。

## 〇潮の満ち引きに注意しましょう

### [事事故事例]

事故者は潮が引いていた時間に沖防波堤に渡って釣りを実施していたところ、潮が満ちて帰還不能になりました。



### [対策]

事前に最新の気象・海象情報を入手し、荒天や潮の満ち引きによる帰還困難が予想される場合は中止や早めに切り上げるようにしましょう。

## ウォーターセーフティガイド

海上保安庁では、水上オートバイやミニボート、遊泳や釣りなどのウォーターアクティビティごとに事故防止のための情報をとりまとめた総合安全情報サイト「ウォーターセーフティガイド」を開設しています。

同サイトに掲載されている安全情報を参考にして、安全のための必要な知識や技能の向上を図りましょう。



<ウォーターセーフティガイド>

[https://www6.kaiho.mlit.go.jp/info/marinesafety/00\\_totalsafety.html](https://www6.kaiho.mlit.go.jp/info/marinesafety/00_totalsafety.html)

## 自船の安全確保3か条

小型船舶の船長は、以下の3つの事項を実践して、自船の安全を確保しましょう。

### 自船の安全確保3か条

小型船舶の船長は、以下の3つの事項を実践して、自船の安全を確保しましょう！

- その1. 発航前、機関や燃料等の点検の実施
- その2. 航行時、常時見張りの徹底
- その3. 故障時に備え、救助支援者の確保



#### 発航前…機関や燃料等の点検の実施

発航前は、船体とエンジン周り、燃料の量、バッテリーの状態を点検するとともに、最新の気象・水路情報等を入手しましょう！



#### 航行時…常時見張りの徹底

航行時は、他の船舶の動向や浅瀬・定置網など周囲の水域の状況を継続して把握する必要があることから、常時適切な見張りを実施しましょう！



#### 故障時に備え…救助支援者の確保

事故で最も多いのが機関故障！発航する際は、万が一の機関故障の発生に備え、仲間の船やマリナー等の救助艇による救助体制をあらかじめ確保しておきましょう！また、併せて入航時刻等を家族やマリナー等へ連絡しておきましょう！



※ 水上オートバイは民間救助組織の対象外の場合がありますので注意しましょう。

<自船の安全確保3か条>

[https://www6.kaiho.mlit.go.jp/info/keihatsu/20180327\\_anzenkakuho.pdf](https://www6.kaiho.mlit.go.jp/info/keihatsu/20180327_anzenkakuho.pdf)

## 海の安全情報

海上保安庁では、海難を防止することを目的として、プレジャーボートや遊漁船の操縦者、海水浴や釣り等のマリンレジャー愛好者の方々に対して、全国各地の灯台等で観測した風向、風速、波高等の局地的な気象・海象の現況、気象庁が発表する気象警報・注意報、ミサイル発射や避難勧告等に関する緊急情報、海上工事や海上行事等の状況に関する海上安全情報、海上模様が把握できるライブカメラ映像等を「海の安全情報」として提供していますので、有効にご活用ください。

パソコンやスマートフォン、携帯電話から、簡単にアクセスできます。 **海の安全情報** で **検索**

パソコン用サイト	スマートフォン用サイト	携帯電話用サイト	緊急情報配信サービス
<p>https://www6.kaiho.mlit.go.jp/</p>	<p>https://www6.kaiho.mlit.go.jp/sp/index.html</p>	<p>https://www6.kaiho.mlit.go.jp/m/index.html</p>	<p>https://www7.kaiho.mlit.go.jp/micsmail/reg/tourouku.html</p>

〈海の安全情報〉

PC用 <https://www6.kaiho.mlit.go.jp/>

スマホ用 <https://www6.kaiho.mlit.go.jp/sp/index.html>

## 自己救命策3つの基本

思わぬ事故から命を守るために、「自己救命策3つの基本」を実践しましょう。

### 自己救命策3つの基本

#### 1 ライフジャケット 常時着用



保守・点検されたものを正しく着用してね。

#### 2 携帯電話等 連絡手段の確保



防水バックに入れて落とさないようにね。



#### 3 海の緊急通報用 電話番号118番

GPS機能を「ON」にすることで迅速な救助につながります。



**NET118**

もしもの場合に備え、家族や友人に「目的地や現在位置（釣場や港・海岸・海域名）」「帰宅時間」を伝えておきましょう。



【過去5年間の海難発生推移（7/16～7/31）】

		平成28年	平成29年	平成30年	平成31年/ 令和元年	令和2年 (速報値)
船舶	海難隻数（隻）	142	115	94	126	78
	死者・行方不明者数（人）	0	0	2	3	0
人身	海難者数（人）	211	200	187	152	153
	死者・行方不明者数（人）	81	70	62	50	50
船舶・人身 死者行方不明者数 計（人）		81	70	64	53	50

【過去5年間のマリンレジャーに伴う海難発生推移（7/16～7/31）】

		平成28年	平成29年	平成30年	平成31年/ 令和元年	令和2年 (速報値)
船舶	プレジャーボート等の海難 隻数（隻）	94	75	47	58	47
	死者・行方不明者数（人）	0	0	2	2	0
人身	マリンレジャーに伴う海難 者数（人）	96	91	95	54	64
	死者・行方不明者数（人）	32	28	23	8	12
船舶・人身 死者行方不明者数 計（人）		32	28	25	10	12

※ 民間救助機関のみによる救助を除いています。

※ 海上保安庁では、平成30年から海難定義を見直しています。